

予防・開発的教育相談の推進に関する研究
～ 体験学習型の研修モデルを通して～

福島県教育センター 指導主事 安田 浩子

1 研究の趣旨

本研究は、教員の生徒指導・教育相談の資質の向上と力量形成のための、実技研修を核にした研修モデルの構築に資する研究である。

すべての教員がすべての児童生徒を対象として、問題行動を未然に防止したり、自分のよさをさらに伸ばすことをねらいとする「予防・開発的教育相談」に積極的に取り組むことができるようにすることを目的とする。また、これまでの研修モデル及び研修内容に改善を加えながら、今後の研修の在り方についても検討していく。

2 研究の概要

各学校の実態やニーズを身近に理解している市町村教育委員会と教育センターが連携し、地区ぐるみで体験学習型の研修を実施することによって研修効率を上げるとともに、研修内容の普及を図ることができないのではないかと考えた。市町村教育委員会は研修体制等のハード面を、教育センターは研修内容及び研修方法等のソフト面を担当することで、それぞれの立場を生かした学校・教員支援をさらに進めることができると考え、次の仮説を設定した。

「体験学習型の研修モデル」を、市町村教育委員会と連携しながら、地区のニーズに合わせて構築することにより、予防・開発的教育相談活動がさらに推進されるであろう。

(1) A地区における予防・開発的教育相談活動充実のための体験学習型の研修モデルの構築
〔地区ニーズ〕すべての小・中学校で「人間関係づくり」のための具体的な指導援助を展開する。

〔対象教員〕小学校2校・中学校1校の教員・計77名
〔対象学級〕小学校6年生(2校・各校2学級・計4学級)、
中学校3年生(1校・4学級)

「生きる力を育てる授業実践プログラム」の効果を把握するためのアンケート調査

「自己肯定度インベントリー」及び「hyper-QU」による個別理解・学級集団理解

教員の意識変容把握のためのアンケート調査

教員対象の「自己効力感及び集団効力感尺度」

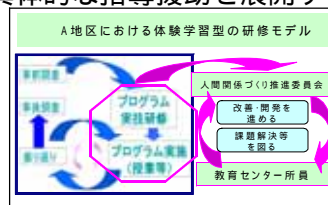
「生きる力を育てる授業実践プログラム」の実技講習を兼ねた教員研修

春休み中：年度始めの学級開きで活用するためのプログラム「出会い」の体験

夏休み中：「hyper-QU」の基本的理解及び2学期に活用するためのプログラムの体験

「hyper-QU」の結果に基づいた、学級タイプに応じた授業実践プログラムの提案

「人間関係づくり推進委員会」のサポート



(2) B地区における予防・開発的教育相談活動推進のための研修内容の検討

〔地区ニーズ〕予防・開発的指導援助を内容とする「教育課題研修」を新たに展開する。

〔対象教員〕小・中学校教員・計90名(「教育課題研修会」受講者)

〔対象学級〕小学校5年生(1学級)、中学校1年生(1学級)

「生きる力を育てる授業実践プログラム」の効果を把握するためのアンケート調査

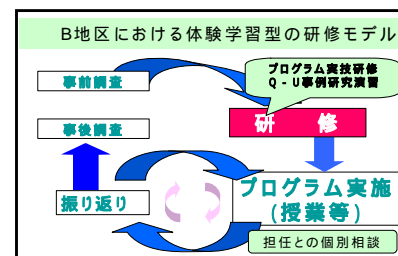
「自己肯定度インベントリー」及び「Q-U」による個別理解・学級集団理解

「生きる力を育てる授業実践プログラム」の実技講習を兼ねた教員研修

「Q-U」についての基本的理解及びプログラム「出会い」の体験

研修内容の検討・改善のためのアンケート調査

研究協力学級担任への支援



3 成果と今後の課題

(1) 成果：市町村教育委員会と県教育センターによる連携が有効に働いた。

A地区の教育委員会との連携により、「人間関係づくり推進委員会」を核にした新たな研修モデルを構築することができた。特に、「生きる力を育てる授業実践プログラム」等を活用した授業(研究授業を含む)の複数回実施など、地区全体で予防・開発的教育相談活動が促進され、児童生徒に好ましい変容が見られた。

B地区の教育委員会との連携では、研修内容の検討を通して、「学級集団へのかかわり」と合わせて、「個別支援の必要な児童生徒へのかかわり」についても、事例研究演習により体験的に理解を深める等、学校・教員支援の新たな側面を見いだすことができた。

(2) 課題：他の市町村教育委員会とも連携を結び、体験学習型の研修モデルをさらに展開したい。

各地区ごとに「推進委員会」を立ち上げ、核となる教員を配置することが必要である。

学校及び地区全体として予防・開発的教育相談活動が確実に行われるよう、各学校の年間教育計画への系統的・計画的な組み入れが必要である。